

座長 矢澤祐史の ありのまま、 心のまま vol.7

愛娘、樹奈は1歳。そんな樹奈は立てるようになるまでに、歩けるようになるまでに、何度も何度も転んで頭を打っては泣いてをくり返している。やがては、その痛みを再度体験しないために、ゆっくりとお尻から座ることを学習していく。転ぶこと自体は痛みであるが、世界が広がることの喜びに、痛みが勝つことはないようだ。なぜなら、痛いからといって途中で投げ出したりはしない。うまくできないからという自信のなさも見受けられない。

探求する時間が生命の喜びを感じさせる。

頭から転んだから上手に座れるようになるのだ。そう、失敗はイノベーション。上手に座ることができるようになるためには、転ぶ必要があるのだ。大人はたかが何十年か長く生きてはいるが、失敗を怖がってばかりいるのかも知れない。どうぞ、数十年の命、ありがたく感謝を込めて、もっともっとダイナミックに転んでみたいと思う今日この頃。

僕の魂はあらゆることを経験したいと目覚めを待っているのが伝わって来る。

今からでも遅くはない、始めるのに遅いことはない、より人生を満喫しよう。そして…、「痛い!」という体験の数こそがイノベーションの数なのだろう。人生はLIVE!

大人は馬鹿を隠して立派な振りが得意になる?

ONENESS MIND ゲストコラム ワンネスグループに縁のある方からのメッセージをお届けします!

vol.3
看護師
増井麻依子さん



●Profile
以前の勤務先である大学で、「喫煙」でのニコチン依存症に対して、予防教育を行い、効果を上げる。その経験を活かして、ワンネスグループ主催のイベントで講演を行ったり、学会などで依存症支援活動の報告を行っている。

ニュースレターをご覧ください。こんにちは。私がワンネスグループの矢澤代表と出会ったのは、大学院生の時。ある依存症回復施設で調査研究をさせていただいた時でした。今では看護師の国家試験でも、依存症看護、自助グループ、民間回復施設について出題されることが当たり前ですが、私の世代、もっとベテラン世代は、依存症の知識をほとんど学ぶことなく看護職者になっていました。依存症と初めてかかったのは、20代の時、臨床でアルコール依存症(ARP)の看護を2年間担当した時です。そもそも依存症についての知識は乏しく、興味もありませんでした。しかし、かかわるにつれ、回復につながらず亡くなっていく人の多さを目にし、「私の行っていることはこれでよいのか? これが本当なのか?」と思うようになったのです。依存症を本格的に学び始めたのは、担当が終わってからでした。依存症の回復について何が必要なのか研究したいと思い、10年間、臨床で働いた後、大学院へ進学しました。

そして矢澤代表と久しぶりの再会。奈良での活動が全国や海外へと大きく広がり、ワンネスグループという名前になって活動をしていると知り、とても驚きました。神戸で開催される「アルコール・薬物依存関連学会合同学術集会」の話をした際に、ワンネスグループのスタッフの方々を紹介していただき、一緒にポスター発表を行う事に。つい先日(10月12日)、私とグループ副代表の三宅さんを中心に、合計4本の発表を行いました。フラワーガーデン、ギャンブル依存、インタベンション、そして菅原弁護士にも参加いただいたダイバージョンという、様々な取り組みを学会に参加した多くの皆さまにご紹介することができました。今後もワンネスグループの方と活動をともにし、私自身もっと多くのことを学び、情報を発信していきたいと思っております。

イベント情報 【すべてのお問合せ・お申込み】 TEL 0745-24-7766 (ワンネスグループ本部) / http://oneness-g.com

ワンネスグループでは全国各地で依存症に関するイベントを行っています。詳しくは各イベントのチラシ、またはワンネスグループのホームページをご覧ください。スタッフ一同お待ちしております! ぜひお近くの会場へお出かけください!

★依存症を知るセミナー★

【愛知・名古屋】11月20日(金)、2016年1月22日(金) 18:30~20:30
名古屋市中区小企業親交会館吹上ホール第4会議室
(名古屋千種区吹上2-6-3)
【岐阜・岐阜市】11月27日(金) 18:30~20:30
岐阜文化センター第1会議室(岐阜市金町5-7-2)
【大阪・大阪市】11月18日(水) 13:30~16:30、
12月16日(水) 18:30~20:30、
2016年1月13日(水) 13:30~16:30
ドーンセンター中会議室2(大阪市中央区大手前1-3-49)
【京都・京都市】12月12日(土) 13:30~16:30
京都福祉会館第1会議室(京都市上京区堀川通太町下る)
【兵庫・神戸市】11月28日(土) 13:30~16:30
兵庫県中央労働センター202号室(神戸市中央区下山手通6-3-28)
【三重・津市】12月4日(金) 14:00~16:30
三重県教育文化会館第4会議室(三重県津市桜橋2-142)
【奈良・奈良市】2016年1月12日(火) 18:30~20:30
エルトピア奈良小会議室3(奈良市西木辻町93-6)

【京都・京都市】12月12日(土) 13:30~16:30
京都福祉会館第1会議室(京都市上京区堀川通太町下る)

【兵庫・神戸市】11月28日(土) 13:30~16:30
兵庫県中央労働センター202号室(神戸市中央区下山手通6-3-28)

【三重・津市】12月4日(金) 14:00~16:30
三重県教育文化会館第4会議室(三重県津市桜橋2-142)

【奈良・奈良市】2016年1月12日(火) 18:30~20:30
エルトピア奈良小会議室3(奈良市西木辻町93-6)

★ギャンブル・アルコール依存症回復セミナー★

【沖縄・那覇市】11月21日(土)、12月19日(土)、
2016年1月16日(土) 17:30~20:00
【11月、1月】男女共同参画センターに3階研修室1
【12月】男女共同参画センターに2階研修室2・3(那覇市西3-11-1)

★女性の依存症と回復セミナー★

【大阪・大阪市】12月5日(土) 18:30~20:30
難波市民センター第2会議室(大阪市浪速区湊町1-4-1)

★ワンネスファミリーグループセミナー★

臨床心理士加藤力がサポートする家族のためのセミナー
【東京・江東区】
12月19日(土)、2016年1月16日(土) 13:30~17:00
NPO法人セルフ・サポート研究所
(東京都江東区亀戸3-61-22 2階)
参加費:4000円(1名のみ)、6000円(ペア)、
3名以上で参加の場合は事前に連絡が必要

★ソーシャルパノラマ・コンサルタント認定コース ルーカス・ダークス博士初来日セミナー★

【東京・江東区】
12月5日(土)~7日(月)・12日(土)・13日(日) ※5日間
日比谷記念ホール(江東区南砂2-1-12東陽町スクウェアビル8階)
参加費:228,000円(税込)
※日本アディクションインタベンション協会主催。社会心理学、NLPに基づいて人間関係を改善する技術「ソーシャルパノラマ」の開発者である、ルーカス・ダークス博士が初来日し、直接指導。コース終了後にはソーシャルパノラマ・コンサルタントとしてのディプロマが発行される。詳しくは「ソーシャルパノラマ」で検索を。

メディアで紹介されました!

9月18日 奈良新聞 / 依存症を知るセミナー in奈良について
10月4日 しんぶん赤旗 / ワンネスグループフォーラム横浜について
10月15日 FM宮古 / 映画「うまれる ずっと、いっしょ。」について
10月19日 FM読谷 / 映画「うまれる ずっと、いっしょ。」について
10月22日 新潟日報(朝刊) / 依存症を知るセミナー in新潟について
10月25日 沖縄テレビ098TV / セレニティパークジャパン沖縄の活動について
以上、セレニティパークジャパンでのギャンブル依存症回復について
・毎週月曜 14:00~ / 木曜 22:30~ J:COM「あした笑顔になあれ」
※東京地区20局で放映中(放送終了後、YouTube「ワンネスグループ」チャンネルでも配信)
・毎週火曜 9:40頃 ~ FM沖縄Fine! / 「リカバリーアライヴ 依存症を生きる」
※大城勝太さんパーソナリティの番組内で、SPJ沖縄スタッフが出演中

取材のお問合せ・お申込み
ワンネスグループ本部
TEL 0745-24-7766

KSKS GARDENの記録

~自分を好きになることから始めよう~

Oneness Mind

ワンネスマインド

vol.7



薬物、ギャンブル、アルコール依存症回復のエキスパート
ONENESS GROUP
ワンネスグループ

依存症でお困りならご相談ください。(受付時間10:00~17:00)

依存症相談ダイヤル

☎0120-111-351

依存で困ったらワンネス 検索

依存症SOS相談メール:sos@oneness-g.com

10周年行事を盛況に終え、新たな一歩を踏み出しました。

●横浜フォーラムが無事に終了しました
秋も一段と深まってまいりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。早いもので今年お届けいたします、最後のニュースレターとなりました。今回は10月を中心に展開いたしましたワンネスグループ10周年行事について、お礼がてらご報告させていただきます。

去る10月3日には、ワンネスグループ横浜フォーラムを成功裏に執り行うことができました。ご来場くださった方々、ありがとうございました。これもひとえに皆様のご支援とご鞭撻の賜物です。これまでワンネスグループが進めてきた高い専門性を持った、包括的な依存症回復支援サービスの構築への取り組みも10年というひとつの区切りを迎えました。今まで積み重ねてきた成果をさらに伸ばし、依存症回復支援を中心としたところのケアの分野で、仲間と一緒に新境地を開拓し続ける所存です。

フォーラムに先立ち、9月22日~27日には、催眠療法の大家であるロクサーナ・エリクソン・クライン博士が初来日され、ワークショップを開催しました。全国よりトップクラスの心理療法家の方が集まり、療法の大局観から細やかな手法までを網羅した、ハイレベルなコースになりました。ロクサーナ先生にもご満足いただき、来年6月には2度目の来日のお約束をいただくことができ、私たちの次なる励みができました。セ

ミナーでの教えはもちろんですが、ロクサーナ先生と公私にわたる友情を築けたことは、私の大きな財産となりました。今回、ロクサーナ先生は息子さんとそのお友達が一緒でしたが、2人は食に造詣が深く、日本食の出汁や味付けで盛り上がり、一流の職人の手による包丁を求めて専門店に足を運ばれていました。私も妻と娘を紹介でき、11月の娘は先生にあやしていただいて大喜びでした。家族ぐるみの時間をともにする中、私も他の仲間も先生の人間性に一段と心を打たれました。先生も我々の熱情に共感してくださり、「ワンネスグループは私のホームグループだ」と言ってくださるとともに、今後の全面的な協力を約束してくださいました。

また、9月29日から10月1日には奈良県大和高田市でICCE(国際アディクション専門職認定教育センター)の講師陣による「アディクション専門職のための危機管理」のトレーニングを実施しました。これはICCEのカウンセラー認定プログラムである共通治療カリキュラム(UTC)のひとつです。自殺リスクや支援の場で、カウンセラーが直面する危機など、具体的なテーマに関して講義や受講者のプレゼンが行われ、闊達な議論が飛び交いました。ワンネスグループや他の回復支援施設のスタッフ、弁護士や県の職員といった専門職の方々が参加され、実りの多いトレーニングになりました。

●ワークショップが目白押し
フォーラムのすぐ後には沖縄に戻り、ステイーブ・ビナイ・ガンサー先生によるゲシュタルトセラピー・ワークショップをホストしました。県内外から援助職や小児科医の方々が集い、美しく穏やかな海を間近に望む南城市の『ワンネスセラピューティックリトリートセンター』において、「今・ここで」の気づきに焦点を当てた密度の高いワークショップが開催されました。

今後も12月にはルーカス・ダークス博士のソーシャルパノラマ・モデル、来年1月のリチャード・グレイ博士のブルックリンモデル、2月にはキーニー夫妻のスピリチュアリティ・ワークショップなど、こころのケアをテーマにしたイベントが目白押しです。依存症のみならず、人間としての成長をサポートできる学びの機会を、幅広く創造していきたいと、私の夢が広がります。10年の節目を迎え、さらなる挑戦と発展を続けるワンネスグループ一同を、今後とも温かく見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。

では末筆ながら、澄み切った秋空のように、皆様のお気持ちが爽快でありますようお祈り申し上げます。

2015年11月
一般財団法人ワンネスグループ
代表理事 矢澤祐史

ONENESS GROUP ワンネスグループのエネルギーは、今、全国に広がっています。

◆ Garden ◆
一般社団法人 GARDEN
(奈良・大阪・沖縄・セブ島)
薬物・アルコール・ギャンブルなどの依存症治療施設

Family Intervention Center
ファミリーインタベンションセンター
(奈良・沖縄・青森・横浜・名古屋)
本人を助ける治療へ繋げるサポート。
依存症家族のための相談窓口

Serenity Park Japan
一般社団法人 セレニティパークジャパン
(奈良・名産)
アルコール・ギャンブルなどの依存症治療施設

Serenity Park Okinawa
一般社団法人 セレニティパークジャパン沖縄
アルコール・ギャンブルなどの依存症治療施設

Garden
Cebu Mactan Island
ガーデンセブマクタンアイランド
留学型のアルコール・ギャンブル依存症治療施設

Flower Garden
フラワーガーデン
女性専用のアルコール・ギャンブルなどの依存症治療施設

ワンネスグループフォーラム 日本における 依存症関連問題の 解決を目指して

10月3日(土)
in横浜

～依存症(ギャンブル、薬物、アルコール) 脱却の為の様々な支援について～

依存症業界の「今」を伝えるために

2005年に矢澤代表が立ち上げたワンネスグループの10年間の歩みを振り返り、日本における依存症対策、回復支援の現状と、新しい解決策の紹介など、新たな提言を行う記念フォーラムが、10月3日(土)に横浜にて開催されました。ワンネスグループと親交のあるゲストに、海外からもお越しいただき、会場に集まってくださった皆さんとひと時を過ごしました。会場には依存症の本人や家族だけでなく医療、司法、行政など、様々な立場で依存症に関わる方、また、特別講師のロクサーナ・エリクソン・クライン博士の講演を一度聞いてみたいという方などがお集まりくださいました。

ワンネスグループの大きな特徴のひとつに、欧米やアジア諸国で開発されている、依存症にとって効果がある心理プログラムを積極的に導入し、日本の文化に即した形で提供していることがあげられます。この度、ワンネスグループが信頼している海外の同志をお招きして、皆さんにご紹介できたこと、また彼らの貴重な見解を直接、日本の関係者に伝えられたことをうれしく思っています。

エリクソン催眠のワークショップを彷彿とさせるような、ロクサーナ博士の講演では、父、ミルトン・エリクソン博士との関わり、依存症とヒプノシス(催眠療法)の関係性、そして博士ご自身の体験が語られました。テイ・ビエン・ホウ氏をはじめとした



海外からのゲスト



テイ・ビエン・ホウ氏

政府間組織コロポプランICCE
(国際アディクション専門職認定教育センター)ディレクター



ロクサーナ・
エリクソン・クライン博士

ミルトン・エリクソン財団理事
公認薬物依存症専門カウンセラー
/看護師/臨床催眠療法士



ロリーン・ルーゲル博士

メリーランド大学医学部問題賭博
センタープログラムディレクター
/国際問題ギャンブルカウンセ
ラー認定委員会代表

ICCE(国際アディクション専門職認定教育センター)の方々からは、薬物依存症の脱却支援について、最前線の取り組みが紹介されました。日本で唯一、矢澤代表が持っているICCEの国際認定資格の詳細についても説明があり、ワンネスグループがICCEと協働して行っているリカバリーコーチなどの育成の取り組みも紹介されました。

ワンネスグループの取り組みを通して

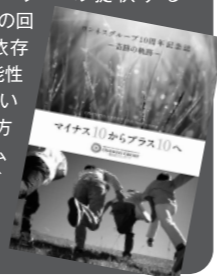
フォーラムでは、ワンネスグループの取り組みと、これまでの歩みも紹介されてもりました。三宅副代表からは、国内における問題ギャンブル対策と予防教育について、ダイバージョンセンターの菅原直美弁護士からは、依存症の疑いのある触法者の再犯防止に寄与するダイバージョンについて、また、ワンネスグループの施設利用者による回復のメッセージ、最後の1時間は矢澤代表と伊藤副代表が10年の歩みを語り合いました。10年前、何も無い所から始まり、矢澤代表が毎日、東奔西走するなかでつながりが生まれ、人が集まり、支援の幅や方向性が広がっていった様子は、まさに「ワンネスマインド」そのもの。この10年をこんなにも素晴らしい人たちが仲間になって、立派な会場で祝うことができたことが奇跡です。その喜びを胸に、これからの依存症対策にむけて、参加者もスタッフも一体感に包まれました。

参加してくださった方の感想 /

- 世界で活躍されている先生方のお話を生で聴けてよかったです。アディクションについて、世界でどんな取り組みがされているのかが知ることができました。(男性・30代)
- 本当に回復された経験のある方のお話は、すごく腑に落ちました。話して下さって、ありがとうございました。ロクサーナ博士のお話も印象的でした。次回のプログラムに参加してみたいです。(女性・30代)
- 回復された当事者さんのお話は、いつもチカラになると聞いています。治療の他に、ワンネスグループでしている「遊び」の部分も大切だなと感じました。(男性・30代)
- 亡くなった友人のご主人がアルコール依存症でした。もう少し早くこのような所があったらと思いました。これからはがんばってください。(女性・60代)
- 10年間の歩み、本当に素晴らしい出会いで、人生が変わりました。ワンネスグループさんに対して感謝しかありません。(女性・60代)
- とても興味深い内容で、楽しませていただきました。場末のイチ臨床家ですが、将来への光をもらったような気がしました。(男性・20代)
- 海外のように、専門資格をもつ方々が日本でも増え、エビデンスに基づく目標と、その継続で幸せな人生を、とり戻す人が増える可能性を感じるフォーラムでした。私の息子も、ガーデンで半年お世話になりました。(女性)
- 現在、保護観察官として、働いていますが、対象者の中で、依存症の方が数多くいます。保護司・保護観察官には、専門知識があるとは限らないので、このような団体からの情報収集等は大事だと思います。(女性・30代)
- 職場復帰を果たし、今は自助グループでリーダー的な役割を得て、幸せに暮らしています。本当に感謝しています。ワンネスさんの活動が広く世の中に広がり、救われる人たちが増えますように。(女性・60代)

10周年記念誌『奇跡の軌跡』 を制作しました!

ワンネスグループ発足10周年を記念して、これまでの歩みをまとめた記念誌を制作しました。タイトル「奇跡の軌跡」は今まで多くの方の回復の物語を目にしてきたワンネスグループならではの、希望が感じられるタイトルとなりました。ぜひ多くの方にお読みいただき、グループの提供する「マイナス10からプラス10の回復」について、また日本の依存症業界の現状と、今後の可能性にご理解をいただければ幸いです。なお、冊子をご希望の方はワンネスグループホームページよりPDFデータダウンロードしていただくことが可能です。



機田憲一

(セレニティパークジャパン沖縄
南城依存症ケアセンター)

矢澤代表の

「変化をもたらす旅」と一緒に。

はじめて矢澤代表にお会いしたのは13年ほど前。沖縄の海を眺めながら、様々な話を熱く話した記憶があります。その当時、多くの仲間が回復にかかる長い時間の中で命を落としていくのを見守るしかなかった私は、「治らない病」との絶望的な一般論を鵜呑みにするしかない状態でした。そんな状態の中、矢澤氏は世界に目を向け、新しいプログラムを探しに行き、そのプログラムを携えて、私の所に訪ねて来てくれました。それまでの時間のかかるプログラムの中で生まれた疑問が、今の日本の依存症回復支援の現場を変えています。ワンネスグループと矢澤代表の「変化をもたらす旅」は、まだまだ続くはずです。なぜなら、私たちは希望を失わないからです。



萩原泰児

(セレニティパークジャパン沖縄
那覇依存症ケアセンター)

気が付いたら10年が
経っていました。

気が付いたら10年が経っていました。気が付いたら薬が止まっていました。気が付いたら援助する立場になっていました。気が付いたら自分が好きになっていました。この10年間で僕が得た変化です。一人では成し遂げられなかったことです。今の私の現実はずべてワンネスグループからもらったもの。10年前の私には想像もつかない人生を生きています。これからの10年も今の自分でも想像がつかない人生を送って行くのだろうと考えています。そのために今の環境が大きな力になってくれるでしょう。この環境を与えてくれた、私のまわりにいるすべての人たちに心から感謝しています。



荒木健太郎
(「拳玉」店主)

課題をクリアして、
よりよいお店を
目指します。

一昨年より、旧知だった矢澤代表と、名古屋でラーメン店「拳玉」を切り盛りさせていたでいています。仲間の就労場所としての位置付けや、地域の皆様へのより美味しいラーメンの提供など、課題は山積みですが、ひとつずつクリアしてよりよいお店にしていきたいと考えています。



櫻井勝之(GARDENスタッフ)

自分に与えられた
自由と信用を胸に。

4年前は依存症の閉鎖病棟にいました。そして、奈良の施設の職員にインタベンションされました。その時、薬をやめられるかも、という気持ちが少し生まれました。しかし大量の精神薬を飲んでいたのでいつも体は重く、頭は働かず、1年間はプログラムもせずに施設にいました。今はプログラムを毎日続け、約3年間、薬が切れて、仕事もしていますし、自分に自由や信用が与えられました。これからも、神さまと、仲間、私たちを受け入れてくださっている地域の方への感謝を忘れずにがんばっていこうと思います。

10周年
記念

ONENESS GROUP
ワンネスグループ

スタッフからの メッセージ

ワンネスグループ10周年にあたり、
多くのスタッフが「今」の心境を寄せてくれました。
スタッフのメッセージを、ワンネスマインドでも紹介いたします。
スタッフはワンネスグループの回復の証であり、大切な宝物。
それぞれが紡ぐ回復の物語にこれからもご期待ください。



大石学(「拳玉」スタッフ)

これまでとは違った道を見出せました。

昨年、名古屋で仕事をする機会を頂き、当初は施設の仕事をしていたのですが、その後、ラーメン店の「拳玉」を手伝うようになり、もうすぐ一年が経とうとしています。これまで飲食業の経験はありませんでしたが、モノを作る楽しさとお客様とのふれあいの中で、これまでとは違った道を見出だすことができました。これからも前を向いて進みたいと思います。



西村典彦

(GARDENスタッフ)

自分の経験を伝える
ことに誇りをもって。

今も覚えています。仮出所の日、施設の先行く仲間2人が迎えに来てくれました。自分にとって一生忘れない日です。施設に来て、自分が依存症とは認めることができずして、そんな私でしたが、仲間の中に居つづけたことで自分の本質に気づき、回復に向かわせてもらえました。今はスタッフ研修をしながら、いまだ繋がらない仲間自分の経験を伝えることを、自身の役割として、誇りを持って回復して行く決心を固めています。これからも、自分のハイパーパワーに導きを与えられるところにベストを尽くして行動していきます。



一森裕(GARDENスタッフ)

当たり前すべての感謝を。

仲間のサポートをさせてもらい気づいたことは、感謝です。当たり前のようにプログラムがあり、食事があり、住むところがありと、ほんとうにたくさんの人たちが手を取り合いサポートをしてくれていたんだと感じました。自身の回復は仲間がいてくれていたおかげだと思います。サポートする立場になって改めて、仲間がいなければ今の自分はいなかったと思います。これからも仲間のサポートを通して、たくさん笑顔と幸せを感じていきたいと思っています。



阿部久嗣

(FLOWER GARDENスタッフ)

家族とも、新たな関係を
築き出したことに感謝。

24年間やめられなかったギャンブル。意志の問題ではなく病気であることを教えてもらい、プログラムを受け、今、こうして自分の人生を笑って過ごせるようになったこと、苦しみを与え続けてきた家族とも、新たな関係を築き出したことに心から感謝しています。人生の折り返し地点と考え、これからはこの病気に苦しむ人たちが、一日も早く笑顔を取り戻せるためのサポートを、自らの成長とともに続けていきます。



池田充

(FLOWER GARDENスタッフ)

自分の人生を自分らしく
生きる幸せを。

施設に来た時は自分の生きている意味など分かりませんでした。仲間の中に居ても、心の中は孤立していました。仲間自分の生きづらさを共感してもらうこと、一緒に楽しい時間を共有する中で、僕は多くの人に支えられていることに気がつき、人生は大きく変わってしまいました。今は失敗を怖がらずに、できることにはどんどんチャレンジしています。今後は苦しんでいる仲間の手助けやサポートすること、自分の人生を自分らしく生きて行くことを目的としていきたいです。



池田秀行

(セレニティパークジャパン名古屋スタッフ)

ひとりでも多く、
プログラムを知ってほしい。

薬物乱用をくり返し、2度の受刑生活の中で、生きていくことがどうにもならなくなったある日、ワンネスグループのホームページを見て、ここへ繋がりました。施設の中でプログラムに取り組んでいる仲間たちが、初めは私にはとても明るく見えました。今は、このプログラムをひとりでも多くの方々に知っていただきたいです。

Report 1

ICCEトレーニング特別講座 「依存症専門職のための危機介入」 を開催しました。

9月29日(火)～10月1日(木)in奈良



横浜でのワンネスグループフォーラムでも講演いただいたICCEディレクターのテイ・ビエン・ホウ氏と2名のトレーナースタッフにご協力いただき、奈良県大和高田市にある「さざんかホール」にて、ICCEのUTC(国際治療カリキュラム)特別講座を開催しました。

今回のテーマは「危機介入」です。依存症ご本人の生命の危険も含まれる危機的状況、依存症支援者であるリカバリーコーチの安全性の保証や、依存症者への効果的なサポートについて学び、ディスカッションをしました。参加して下さったのはワンネスグループスタッフだけでなく、各地の依存症回復施設の職員の皆さま、奈良県職員、弁護士、刑務所職員やメンタルヘルスケアの専門職の方々。依存症回復支援にお

いて、さまざまなストレスが重なることで生じる「危機」は、つねに回復ととなりあわせの存在です。回復の途中にあっても「再使用」を招くこともあります。危機をマネジメントすることで、クライアントにとっては逆に「回復へのチャンス」にもなりえると理解を深めました。また支援者自身が受けるストレスをどのように管理するのことも学びました。

50名近くの方が熱心に参加し、集中して学ぶとともに、それぞれの立場から自分の意見を積極的に発表して下さったことで、ICCEの皆さんもたしかに手ごたえを感じて下さったようです。今回の特別講座は、来年行われるICCEリカバリーコーチ資格取得のためのトレーニングに向けて、意識を高める機会となりました。



来年春季には、今年3月に行われたICCEリカバリーコーチトレーニングの続編を開催する予定です。ワンネスグループのスタッフが資格取得に向けて動んでいます。

Report 2

政府関係者、奈良・関西地区関係者と、 「薬物事犯者の再犯防止」に関する 意見交換会を行いました。

9月30日(水)奈良・大和高田さざんかホールにて
10月2日(金)東京・参議院議員会館にて



海外で活躍されているICCE主要スタッフメンバーが来日されることをきっかけに、ワンネスグループが先導となって、政府や奈良県および関西地区の関係者に海外の依存症支援の現状を知ってもらいたい、また日本における依存症支援の底上げと活性化のサポートをお願いしたいとの思いから、9月30日(水)は奈良・大和高田市で、10月2日(金)には東京・永田町にある参議院議員会館で、関係者の方々と「薬物事犯者

の再発防止」について意見交換会を開催いたしました。

議員会館での意見交換会には、国会議員関係者、法務省、厚労省、外務省など政府関係者、日弁連など、様々な立場の皆さまが参加して下さりました。ICCEのテイ氏が、海外での薬物事犯者とその背景にある依存症への取り組みについてお話をしてくださり、参加された方々もそれぞれの立場から対策についての現状を発表して下さりました。また、ワンネスグループも国内での依存症支援の取り組みを発表できる時間をいただき、矢澤代表が話をしました。

それぞれの立場での取り組みがある中で、今後はお互いの領域を超えて協力する必要性が浮き彫りになり、またそれぞれが海外での依存症支援のスタンダードになっていることをご理解いただけました。今後、国内での依存症支援において、幅広いサポートシステムが網目のように構築できる

ように、ワンネスグループもますます尽力していこうと思っています。お忙しい中にご参加いただきました関係者の方々、この場を借りてお礼申し上げます。



10周年
記念

ONENESS GROUP

ワンネスグループ

イベントレポート

2015.SEP >> OCT

この秋、ワンネスグループは10周年を迎え、イベントが盛りだくさんでした。矢澤代表をはじめ、担当スタッフはその準備に日夜をこまめに過ごして、力をあわせてすべてを乗り切りました。どのイベントにも気づきや学び、今後の広がりを感じることができ、達成感でいっぱいです。「積極的に動くこと」がワンネスグループの真骨頂、ニュースレター後半ではその一部をレポートします。

Report 3

現代催眠療法の生みの親ミルトン・エリクソン直系 ロクサーナ・エリクソン博士による ヒプノシス(催眠療法)トレーニング

9月22日(火)／エリクソン催眠セルフヒプノシストレーニング
9月23日(水)／うつの対処法としての催眠療法トレーニング
9月24日(木)～27日(日)／エリクソン催眠プラクティショナー認定コース



ワンネスグループのシルバーウィークは、催眠療法の大家であるロクサーナ・エリクソン博士とともにありました。横浜フォーラムに先立って開催されたワークショップは、現代催眠療法の大家であるミルトン・エリクソンの愛娘であるロクサーナ先生から、直々に指導いただけるとあって、トップクラスの心理療法家の皆さまが、全国から集まってくださいました。またワークショップも催眠療法の大局観から細やかな手法までを網羅した、非常にハイレ

ベルな内容になりました。ロクサーナ先生も大変満足してくださり、参加された方々のリクエストもあって、来年6月に再来日がその場で決定したのです。しかも次回は先生の仕事のパートナーでもある、ダン・ショート博士も一緒にです。来年はさらに高度な内容のワークショップが開催できるとあって、我々も今から楽しみです。私たちの情熱に、大変共感して頂き、「ワンネスグループは私のホームグループだ」とおっしゃって下さり、今後の全面的な協力も約束してくださいました。思いがけぬつながりを作り、関係性を深めてくれると実感した貴重な体験となりました。

2016年6月
ロクサーナ・エリクソン再来日!!
ロクサーナ・エリクソン・クライン博士&ダン・ショート博士
エリクソン催眠トレーニングコース
★エリクソン催眠プラクティショナー認定コース
2016年6月2日(木)～5日(日)
★エリクソン催眠マスタープラクティショナー認定コース
2016年6月10日(金)～13日(月)

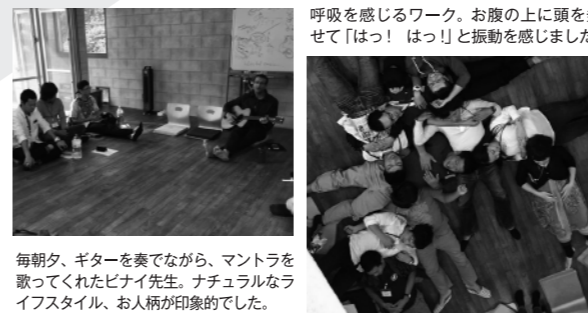
速報!!

会場／KFC Hall&Room(東京都墨田区横綱1-6-1)
※詳細は決まり次第、JAAI(日本アディクションインタベンション協会)ホームページにてお知らせいたします。<http://jaai.oneness-g.com/>

Report 4

「今、ここ」にある意識をすくいあげる スティーブ・ビナイ・ガンサー先生 ゲシュタルトセラピー 6日間 集中プログラム

10月9日(金)～10月14日(水)in沖縄 ワンネスセラピューティックリトリートセンターにて



毎朝、ギターを奏でながら、マントラを歌ってくれたビナイ先生。ナチュラルなライフスタイル、お人柄が印象的でした。

呼吸を感じるワーク。お腹の上に頭を乗せて「はっ! はっ!」と振動を感じました。

沖縄・南城市にはワンネスグループのセミナーハウス「ワンネスセラピューティックリトリートセンター」があります。色彩豊かな美しい海を目の前にした、開放感あふれる癒しの空間で、オーストラリア心理療法界の第一人者である、スティーブ・ビナイ・ガンサー先生をお迎えしてゲシュタルトセラピーが開催されました。ゲシュタルトセラピーは心理学にあり方のある方には比較的馴染みのある療法です。身体感覚・認知として感じる気づきと、「今ここ」そして「我(わたし)と汝(あなた)」という関係に光をあてます。「自分が今、何を感しているのか?」とオープンカウ

ンセラピーやグループワークを用いてフォーカスすることで、自分が本当に何を望んでいるのか、注意深くつかみ取り、その感情を自分にフィードバックすることで、問題を解決できる力を養います。リトリートセンターの心地よい空間は、とくに呼吸や瞑想を大切にしているゲシュタルトセラピーにはベストマッチし、ビナイ先生や参加して下さった方々に特別なひと時をお過ごしいただきました。

来年もワンネスグループと JAAI(日本アディクションインタベンション協会)が携わる興味深いセミナーやワークショップが開催されます。引き続き、ご期待ください。

今後の予定

リチャード・グレイ博士に学ぶブルックリンモデル(認定)とトラウマリリース～やめたくてもやめられないことへの効果的なアプローチ～
2016年1月22日(金)、23日(土)&24日(日)、29日(金)～31日(日)in東京

ブラッドフォード・キーニー博士&ヒラリー・キーニー博士トラウマワークショップ2016 ～スピリットを呼び覚ます、魂の癒し～
2016年2月6日(土)&7日(日)、11日(木)～14日(日)in東京

※詳細は今号に同封しております付録チラシをご覧ください。またJAAI(日本アディクションインタベンション協会)ホームページでもお知らせします。<http://jaai.oneness-g.com/>



セレニティパークジャパン名古屋の代表泉よりあいさつ

イベントが続いた9~10月、最後を飾ったのは、作家・ひすいこたろう氏をスペシャルゲストにお迎えした「セレニティパークジャパン依存症を知るフォーラムin名古屋」でした。愛知をはじめとする東海三県でのワンネスグループの活動を地域の方に広くお伝えし、さらなる活性化を目指して開催されたイベントには、200名を超える方々に集まっていただくことができました。セレニティパークジャパン名古屋代表を務める泉圭介がごあいさつさせていただいた後、ワンネスグループについて説明を行いました。今回は回復支援だけでなく、司法の立場から依存症をサポートするダイバーションセンターの取り組みを、センター長を務める菅原直美弁護士に、一日でも早く回復へつなげるためのインタベンション(介入)

Report 5

作家・ひすいこたろう氏をお迎えして ギャンブル・アルコール依存症治療共同体 セレニティパークジャパン 依存症を知るフォーラムin名古屋 が開催されました。

10月25日(日)in名古屋

について、日本ファミリーインタベンションセンターディレクターの大田宏充が話をさせていただきました。会場からは、講演の後、すぐにインタベンションについての相談が何件か寄せられる場面も。大切な家族を助けたいという、強い思いを感じた瞬間でした。
スペシャルゲストのひすいこたろう氏による講演では、自分らしくよりよく生きるためのヒントとして、著書のお話や、コトダマメソッドの「まなゆい」について、奥さまとのパートナーシップについてなど、会場の誰にでもわかるよう楽しくお話をしてくださいました。矢澤代表との対談も非常に熱量の高いものに。矢澤代表自身、自らの経験を語る中で、ひすい氏ならではの解釈に新たな気づきを得られたようでした。イベント終了



フォーラム終了後、イベントの成功を記念してスタッフ全員で撮影。これからもワンネスグループらしい一体感を持って、がんばります!

後、参加者からの感想にも、ひすい氏と矢澤代表の対談に元気をもらったという声が多数ありました。このようなイベントを今後も企画していきたいと思っています。ご期待ください。

Information

「手をつなごうよ~ 今を生きる人々へ~」 プロジェクトに 協賛いただいた皆さま

女性のための依存症リハビリ施設「フラワーガーデン」では、さらなる支援体制の充実、家族や子どもたちの支援のためにさまざまなプロジェクトを計画しています。このプロジェクトにご支援いただいた皆さまをご紹介します。皆さまよりいただいたご厚情は有意義に使わせていただきます。



プロジェクトに協賛いただいた方

総合保険あんしん様/けんばーのすばや様/ (株) ククルビジョン様/株式会社 FLEc 様/ (有) 千代田開発様/大同火災海上保険(株)様/海鮮悟空様/(株)ひろし不動産様/山田満夫様/中曽根芳子様/松本亜矢子様/島田善次様...その他、匿名の方(順不同)

Report 6

感動の輪が広がっています! 映画『うまれる ずっと、いっしょ。』 上映会を沖縄、茨城で行いました。

「生きる」ことの尊さに、 感動の輪が広がっています

この夏、関西で上映会が行われた映画「うまれる ずっと、いっしょ。」は、沖縄県では石垣島、宮古島を含む4会場にて、加えて茨城県・取手市において、さらなる感動の輪を広げました。

沖縄県では本島で2カ所、離島2カ所で開催することができ、最終日の那覇会場には400名を超える皆さまにご覧いただくことができました。沖縄ではワンネスグループの活動や役割が、依存症回復支援だけでなく、「より良く生きることを考える活動」へと広がっています。事前の広報では、地元のラジオ局やケーブルテレビ局、またタウン情報誌にもご協力いただき、新たなつながりが広がりました。当日の会場には小さなお子様を連れられた若い世代の方も多く、家族について考えてくださる機会になりました。

また取手市では、地元商店街の方々にご協力いただいで上映会を開催。当日、依存症とはかわりがない地元の方が多く参加してくださいました。ワンネスグループの活動を伝えることで、依存症そのものへの理解を示してくださった方もいらっしゃいました。私たちは今、依存症の回復支援だけ



(左) 地元メディアの協力もあって、盛況だった那覇会場
(右) 名護会場はアットホームな雰囲気
(右) 大きなシートを広げて小さなお子様も楽しく鑑賞しました



Topics

「自分」を守ろう、「自分」を助けよう!! 『若者と依存症』を考える

ワンネスグループスタッフ、 20代若手チームが伝えたいこと。

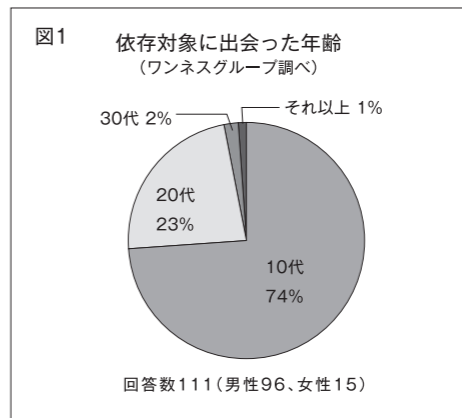
依存症は年齢にかかわらず陥る「心と身体の病気」です。脳の機能が依存対象や依存行為によって乗っ取られ、正常な判断ができなくなって、心も身体も、人とのつながりや、自身の生き方を失ってしまうおそれがあります。病気ではありますが、その背景には生活環境や家族との関係性、本人が抱える生きづらさなどが深くかかわっており、回復の過程のなかで自分自身と向き合い、物事のとらえ方や人間関係の作り方、自分や他人への信頼感などを養い、よりよい生き方を学ぶことなくしては、依存対象から離れた生活を継続することは難しいとされています。

今、ワンネスグループでは、依存症で困っているご本人の回復支援やご家族の支援だけでなく、予防教育や啓発活動に力を入れ、依存症にならない、または早期に回復へつながれるよう、情報発信に務めています。なかでもとくに若い世代へのアプローチを積極的に行っています。

依存対象との出会いは 10代が圧倒的

現代社会は複雑に情報化され、ライフスタイルの多様化やスマートフォンの普及などで、若い世代が依存対象に触れる確率は、上がる一方です。ここ数年大きな問題となっている危険ドラッグはパッケージやネーミングが若者向けにデザインされることも多く、興味本位で使用してしまうケースや、危険ドラッグの規制強化によって、「ゲートウェイ(入り口)ドラッグ」と言われている大麻を使用する若者の増加が指摘されています。また、アルコールに関しても学生たちによるイッキ飲みなど、その場の勢いに任せあげくの悲劇がくり返されています。ドラッグやアルコールは、出会ったその時に重篤な結果を招く危険もあります。継続的な使用から依存に至るおそれもあります。

ワンネスグループのクライアントを中心に行った「依存対象に出会った年齢調べ(※図1参照)」では、10代が圧倒的に多いですし、これは全体的な傾向と言えるでしょう。思春期を迎え、多感な時期、心も身体も大人になる時期に、刺激を求めたくなる欲求、またその欲求を楽しみに感じる感性は理解できるものです。一時の火遊びとして終えられるか、それとも依存症に陥ってしまうかは、人生において大きな違いです。刺激のあるものが自分にどのような影響を及ぼすのか、その延長線上にどんなリスクあるのか、たくさんのチャンネルを使って、大人の責任として伝えなければなりません。



ネット依存は深刻化の入口にも

スマホやパソコンを持ち始める10代は、とくに多感で繊細な時期。SNSやゲーム、ネット検索など、できることや、知ることが一気に増え、自由で楽しい世界があるように感じるのも無理はありません。しかしネットやスマホには、情報社会のダークな一面があります。それを知らずして、利用し続けることは非常に危険です。最近では若者より、もっと若い子ども世代でも問題として話題になることがあるほどです。検索依存、SNS依存、ゲーム依存など、ここでも多様化が見られ、課金制ゲーム依存からギャンブル依存へ、恋愛ゲームから人間関係依存へと、深刻化するケースも。また不登校や引きこもり、ネット上でのいじめ、ニートなどの問題にも発展しやすいと言われています。さらにドラッグなど他の依存の情報源になるおそれもあります。情報化社会と離れて暮らすことは、現代社会においては不可能です。だからこそ正しい情報、適切なつきあい方を知り、親はもちろんです、自分で自分を守る強さを育ててもらいたいと伝えています。

20代若手チームが情報発信

ワンネスグループにはさまざまな世代の方が入所されていますが、10代、20代の若い世代も多いです。中には回復を果し、スタッフとして自分の経験を活かし、積極的に情報を発信してくれる人もいます。これまでも、奈良や大阪などの高校・大学で講演会を数多く実施。依存対象と出会い始める年代に向けて、当事者だからこそできるメッセージを送ってきました。

そしてこの度、ギャンブル、薬物、女性支援のそれぞれの専門分野から1名ずつ計3名がタッグを組んで、セミナーを開催しました。今後も対象年齢に



より近いスタッフが話をすることで、リアリティのある身近な話題として感じてもらう、または直接相談に乗れる機会を作って行く予定です。



10月31日にセミナーを行いました

ワンネスグループの若手スタッフを代表して、梅井将馬(ギャンブル)、酢谷映人(薬物)、井上麻希(女性の依存症)の3名が、それぞれの専門性を活かしてセミナーで発表を行いました。依存症についての説明やワンネスグループの活動を報告し、「自分が依存症かもしれない、また何か不安なことがあれば、相談してほしい」「友だちやまわりの人で、様子がおかしい人がいれば勇気を持って連絡してほしい」と早期発見早期対処の必要性を伝えました。どんな依存症であっても、若いうちに回復につながれば、回復の可能性が高まります。また、若いからこそできる様々な事にチャレンジすることが可能になります。予防教育も早期対処も含めて、今後も3人のチームで出張セミナーを行い、若者と依存症をテーマに活動を続けていきたいと思っています。ニュースレターをご覧の学校関係者の皆さまも、依存症教育、こころの教育の一環として取り入れていただければ幸いです。

